東雲小学校

「自ら考え判断し，意欲的に学習する児童の育成」
～互いの考えの交流を大切にした道徳の授業づくりと児童の見取り～

Ⅰ　研究の内容

1　研究の具体的内容

（1）特別の教科道徳における「考え議論する道徳」の授業づくり

（2）児童の見取り

「児童の学習状況及び成長の様子についての評価」OPP シートの活用

（3）児童の実態把握

ア　NRT 検査の実施と分析

イ　Q—U 検査の取り組みと K13 簡易法を用いた学級づくり

ウ　メディアアンケート

（4）日常的な取り組みの共有

ア　家庭学習の取り組み

Ⅱ　研究の方法

1　学習会

（1）「児童の学習状況及び成長の様子についての評価」

～子供たちの何をどう見とっていくのか～　（資料による学習会）

山梨県総合教育センター　山田　睦子　先生

（2）①道徳科の趣旨を生かした授業とは

②授業づくり（構想）のポイント

山梨大学大学院総合研究部教育学域教育学系（教育実践創成講座）

田中　一弘　准教授

2　授業研究会

（1）研究授業

・第３学年　道徳科　「真心をこめた挨拶」　あいさつでつながる

令和２年１０月２１日（水）　授業者 中根　淳 教諭

指導助言　峡東教育事務所　早川　賢一　指導主事

（2）授業実践

・第１学年　道徳科「きまりをまもって」　きいろいベンチ

授業者 内田　厚子 教諭

・第２学年　道徳科「よいと思うことはすすんで」　ぽんたとかんた

授業者 中村　伸也 教諭

・第４学年　道徳科「友達との信頼ときずな」　絵はがきと切手

授業者 金子　由佳 教諭

・第５学年　道徳科「豊かな人間関係をつくる」　ロレンゾの友達

授業者 田邉　珠紀 教諭

・第６学年　道徳科「よりよく生きる」　六千人の命のビザ

授業者 阿部伸之介 教諭

・あおば学級　算数科「分数を使った大きさの表し方を調べよう」

授業者 菱澤　里美 教諭

・ひまわり学級　算数科「分数をくわしく調べよう」

授業者 村田奈緒美 教諭

・第５学年　総合的な学習の時間

「Scratch」を体験してプログラミングを学ぼう

授業者 山縣　重人 教諭

Ⅲ　成果と課題

新学習指導要領の改訂で，昨年度から全面実施された「特別の教科　道徳」。中教審の答申においても『考え議論する道徳』へと転換を図るものであると目指す方向性が示され，本校でも昨年度より研究の柱にして道徳の授業づくりを研究してきた。

昨年度末，「児童の変容を見取る方法」や「評価」にも研究を広げていくことが方向性として出されていたのを受け，今年度はサブテーマとして「互いの考えの交流を大切にした授業づくりと児童の見取り」として，道徳の授業づくりについて研究を深めながら，児童の「何を」「どう見取っていくのか」，道徳科の授業で児童を見取る評価についても研究を進めてきた。

道徳科の評価は，他の教科等のような「知識・技能」，「思考力・判断力・表現力等」，「主体的に学習に取り組む態度」という観点別に評価することが妥当ではないと考えられる。また，道徳性を構成する「道徳的判断力，道徳的心情，道徳的実践意欲と道徳的態度」それぞれを切り離して，観点別に評価をすることにもなじまない。評価の「視点」として，授業を継続して行う中で，突出した様子を複数の点から見取ったり，年間や学期といった時間的なまとまりの中での様子を見取ったりして評価していくなど，学習状況を見取り，その成長の様子を把握し，評価につなげていく方法について研究を進める中で理解を深めることができた。研究組織として２部会での研究は，議論しやすい場となり研究を深めることができたが，互いの研究の交流という点では課題が残ってしまった。限りある時間を有効に活用し，研究をより深めていけるように来年度以降も一人一人が意識して研究に取り組んでいきたい。

また，甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとも連携し，望ましい学級集団づくりを基盤とし，児童一人一人の学力向上を目指していきたい。

Ⅳ　成果物

1　研究授業の指導案 道徳科指導案，一人一実践の指導案　実践記録
2　東雲小家庭学習の手引き・スタンバイの取り組み
3　道徳科 OPP シート

（研究主任　田邉　珠紀）